

PICK UP
THE PERSON

(株)アイテックス

KEY WORD

進展

—shinten—

大手IT企業で定年まで勤め上げてから、泉川元宏会長が設立した『アイテックス』。豊かな知見に裏打ちされた舵取りにより、創業からの15年で規模は大きく拡大した。そして会長は「若き力に会社を委ねる時だ」と悟り、泉川絵美社長に代替わりすることを決定。会長が同社で残した功績は大きい。その分社長の双肩にかかるプレッシャーは重いだらう。しかし、期待とバックアップを一身に受けたことで、社長は覚悟を決めた。「自分が事業を受け継いだからには、会社も新たなステージに進む必要がある」。同社の物語は新章に突入した。社長は「自分だからできること」をこれから追求し続けていく。



代表取締役会長

泉川 元宏



代表取締役社長

泉川 絵美

●対談記事は56・57頁に掲載

「これまでの蓄積を無駄にはしません。
現状維持ではなく、発展を目指します」

ベテラン技術者の眼と、若き力が融合し 企業のビジネス機能に強力サポートを



ドイツの大手ソフトウェア企業『SAP』の基幹システムパッケージを主に扱い、顧客となる企業に対しその導入支援や開発業務、そして保守運営などのサービスを提供している『アイテックス』。創業したのは大手IT企業で定年まで勤め上げた泉川元宏会長。そして同氏は2021年6月、後継者として自らの娘、泉川絵美社長に同社を託したのだ。本日は両氏のもとをタレントの島崎俊郎氏が訪問し、インタビューを行った。

「御社は、どのような事業を手掛けられているのでしょうか。」

（元） 当社が手掛けるのは、ERP（エンタープライズ・リソース・プランニング）に関する事業です。より詳しく申しますと、ドイツの大手ソフトウェア企業『SAP』さんの基幹システムパッケージを中心に扱い、導入支援や開発業務、また保守運用などのサービスを提供しているのです。当社の製品は販売や物流などに関する社内データを一元管理することが可能で、業務の効率化や経営判断に際し絶大な効果を発揮するんですよ。また多言語に対応しているため、国内外のグローバル企業様にも多く採用されているのです。もちろん『SAP』さんの製品以外にも、『富士通』さんの『GVOVA』などの国内で評価の高いERP製品の数々を取り扱っていますよ。

「『SAP』さんの製品を扱って仕事をすることができるようになるまでには、どういった経緯があったのですか。」

（元） 私は『早稲田大学』の理工学部を卒業した後、時計の会社にはしばらく勤めてから大手IT企業に転職し、そこで定年まで働いていたんです。ある時子会社に出向し、製造部門と流通部門を統括する役職を任せられました。そこで『SAP』さんの製品を使ってシステムを開発し、顧客に納めるという仕事を体験したのです。製造部門では『トヨタ自動車』、流通部門では『ヨドバシカメラ』などの企業が顧客でした。

「いずれも錚々たる大企業ですね。大きな規模のお仕事をされていたことが窺えます。では、御社の設立はいつですか。」

（元） 定年後、他の会社に移り仕事をしていたところ、お客様から『SAP』の製

ゲストインタビュアー 島崎 俊郎 (タレント)



「有実績を重んずくお客様と仕事をかね、15年ほど泉川社長が率いておられる会社で、そのお二人が期待を込めておられるので、今後成功を期して」

品を扱う会社を立ち上げてくれないか」という声があり当社を設立したのが約15年前です。学生時代の仲間にも社長になっている人は少なくなかったので、それに刺激を受けた部分もあります。会社設立のきっかけを下さったお客様の存在や、これまでのキャリアで築いたコネクションを活かすことにより設立直後から仕事の依頼に恵まれ、良いスタートを切ることができました。その後古巣の同僚や部下たちを採用しながら、徐々に会社として強固な基盤を築くことができたと感じた私は、バトンタッチの時だと悟ったのです。2021年の6月からは、娘が社長職を務めています。

「なるほど。では、ご息女の絵美社長はそれまでのようなキャリアを？」

（絵） 他社で燃料電池の研究の助手をしていました。元々会社を継ぐつもりはありませんでした。父の熱意に心を動かされたことや、やりがいのありそうな仕事だと感じたことから、当社の社長職を引き受けることに。今もプレッシャーは感じています



代表取締役会長

泉川 元宏



代表取締役社長

泉川 絵美



株式会社 i-TEX アイテックス

東京都千代田区岩本町 3-2-2 マルトモ東京ビル 8 階

URL : <http://i-tex.jp/>

が、父が築き上げたこの会社は、専門的な部分に関する知識も技術もある素晴らしい人材が揃っているのです。そんな優秀なスタッフさん方に助けてもらいながらなら、やっつけられると思えるのです。社長を任される以前から会社の資金管理に関しては全て任されていたので内情はしっかり理解できています。後は営業などで経験を積み、段階的に社長としてスタッフさん方の信頼を掴んでいきたいですね。

—— お話も尽きませんが、最後に今後の抱負をお聞かせ下さい。

(元) 今は会長という立場ですが、これまでお付き合いさせていただいているお客様



や友人たちとのつながりを大切に守ってきたいですね。周囲の人間の力がなければ、ここまで到達することはできませんでしたから。後は、人生で蓄積してきた仕事のノウハウを全て社長に落とし込み、バックアップすることに集中します。

(絵) 会長の後継者として15年続く当社の強みを知り、受け継ぎ、さらには勉強を重ねてその強みをより絶対的なものにしたいです。これまでの強み以外にも、新たに当社の武器となる要素を作っていく構えです。最終的には、会社の規模をもっと大きくできればと。現在当社は50〜60名ほどのスタッフさんが在籍しているのですが、ニーズの高さに対する人材の数としては充分とは言えません。理想を語るのなら、100名ほどにスタッフさんの数を増やしたいですね。そのためには、まだまだ精進が必要です。会長と力を合わせ、より多くのお客様の満足に寄与していきます。

変容する時代に適応する柔軟性

▼周囲の後押しにより、泉川元宏会長が創業した『アイテックス』。当時の会長は、大好きなものづくりの業界で細々と事業を継続できれば充分、と考えていたそう。そんな謙虚な思いとは裏腹に、事業は順調に成長を遂げていき、3度も事務所を移転した。しかし、ピンチと無縁だったわけではない。

▼創業から2度、赤字の年も経験した。メインの顧客である製造業や小売業に経営不安が広がると、設

備投資に掛けるお金の額も減り、『アイテックス』への依頼も減ってしまうのだ。リーマン・ショックが最たる例である。しかし会長はそれに動じず、培ってきた知見を活かした対応力で、赤字をすぐに黒字に引き戻したのだ。現在もコロナ禍を迎えており、時代の潮流を読む力が求められるはず。しかし若き泉川絵美社長に大きな心配は必要ない。なぜなら、そんな優秀な会長が認め、次を任せた人材だからだ。